

© 発行 中京大学
〒466-8666
名古屋市中区八事本町101-2
中京大学スポーツ編集局
(スポーツ振興室内)
TEL 0565-46-6935
http://www.chukyo-u.ac.jp



中京大学スポーツ

学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ



2014 (平成26) 年
4月23日

第6号



現社・村上ゼミ アンケート

新入生「応援に行きたい」74%

2014年度入学の新入生の74.2%が、中京大学のスポーツの応援・観戦に「機会があれば行きたい」と希望していることが、村上隆・現代社会学部教授のスポーツ関心度調査(速報)でわかった。応援・観戦の希望者は11学部すべて5割以上。とりわけ女子学生の関心の高さが目立った。調査は、4月1、2日の新入生ガイダンスの際にマークシート方式で実施。3183人が回答した。村上教授のゼミは、昨年のサッカー交流戦、硬式野球秋季リーグでも観客調査をしたが、新入生対象は初めて。応援・観戦の希望者を学部別、男女別で見ると、9学部で女子学生が男子学生を上回った。国際教養、国際英語、経営、総合政策、現代社会の5学部は女子学生が8割台、スポーツ科は9割超と高率だった。村上教授は「入学直後という特殊な条件での調査とは言え、これだけの潜在的希望が示されたのは驚き。これをどう顕在化するか、学生の組織作りとともに、スポーツ観戦・応援そのものの魅力度をアップするための多様なアイデアが求められる」と話している。



ソチ五輪の特別寄稿をした北川学長(3月15日、豊田スタジアムで)

北川学長が特別寄稿

ソチ2月20日、日本21日未明、視聴率20%、日本中が浅田真央さんのフリーに沸いたという。前日でのショートプログラムでは滑る前から緊張感が伝わってきた。表情が硬すぎるのである。それは村上佳菜子さんも同じであった。その心配は的中し、日本中が愕然とした。会場も悲鳴に包まれた。初日と2日目、浅田さんがどのような心境であったか、私には想像することが精一杯で、本当のところは分からない。彼女のレベルの心境に

ソチの感動を東京五輪につなごう

達したことがないからだ。おそろくはどうしてもやりたい演技があったのではないかと、そして、それに失敗して全体が乱れた、ということであろう。素人的なアカリ、というよりはチャレンジの失敗ということではなからうか。フリーでは開き直り、ここでやりたいことをやらなければ後悔する、と。初めのジャンプに成功してから、は殆どミスなく演技を終えたのである。メダルは取れなかったが、不死鳥のごとく羽ばたいた彼女は、日本のみならず世界中を感動させたのであった。さて、ソチは私にとっては初めてのオリンピックであった。海岸沿いにある主会場はソチの街から1時間ほど。日程の都合で他の会場の状況は知らないが、このような大会の運営が如何に大変かを実感した。特に、ソチではアロの危険性も噂されたこともあり、会場に至る警備体制は驚くばかりであった。会場ではロシア人以外の参加は少なかつた。入場までの手続きの煩雑さも一因であろう。そのせいか、オリンピック会場ではよく見られる各国人が入り乱れてのお祭り騒ぎは見られなかった。極めて窮屈な環境であったが、それでもオリンピックは無事に行われた。パラリンピックにおいては紛争中のウクライナも出場した。良くも悪くも、個人にとっても国において、オリンピックは発表の場である。2020年には東京でオリンピックが開催される。浅田さんと村上佳菜子さんのような個人的高揚は当然のこと、オリンピックは日本人の考え方や振る舞いが注目される大イベントであることは間違いない。本学の学生たちは、現役、OBも含め一人でも多く、こうした舞台に臨めるよう研鑽に努めてほしい。



金メダルを手に笑顔の浅田選手(3月29日、さいたまスーパーアリーナで、中日新聞提供)

浅田選手「ありがとう」

五輪乗り越え世界女王

フィギュアスケートの浅田真央選手(体育4、中京大)が、3月末にさいたま市で開かれた世界選手権で、4年ぶり3度目の優勝を果たした。ショートプログラムのソチオリンピックは総合6位にとどまったが、その反省を見事に生かした。2010年バンクーバー(3回転半ジャンプ)に挑み続け、猛練習の日々を送った。佐藤信夫コーチの元でスケート技術を一から見直した。浅田選手の代名詞とも言えるトリプルアクセル(3回転半ジャンプ)に挑み続け、猛練習の日々を送った。

ソチ五輪ではショート16位と出遅れたが、翌日のフリーで会心の演技。トリプルアクセルを含む6種類の3回転ジャンプをすべて成功させ、わずか1日で立て直す精神力の強さを見せた。世界選手権では、持てる力を出し切り、世界女王となった。二天会を終えた浅田選手は「ソチではショートで失敗し、メダルを取れませんでした。世界選手権は絶対に失敗を繰り返さないといい、五輪の後にも練習量を変えずに続けた結果、優勝できました」と振り返った。ソチ五輪のフリーに合わせ、豊田キャンパスで体育会の学生ら約300人が応援したことに、「中京大生と関係者の皆様、応援ありがとうございました。皆さんには、目標を持って諦めずに努力し続けられ、必ず達成できることを伝えたいです」。浅田選手はアスリートの大切な姿勢を最高の大会で示した。

ソチ五輪7人が出場

ソチ五輪には、浅田選手を含め中京大学関係者が7人出場し、本学スポーツの底力を見せつけた。7人の内訳は、学部学生4人(出場時)、大学院生1人、OB2人。フィギュアでは、初出場の村上佳菜子選手(スポーツ科2、中京大中京)が12位となった。高橋成美選手とのペア結成1年で出場した木原龍一選手(スポーツ科4、中京大中京、木下クラフ所属)は、団体戦の5位入賞に貢献、個人戦は18位だった。カーリングの小野寺佳歩選手(13年度体育卒、北海道銀行所属)は、初戦の前日に体調を崩したが、2試合に出場し、チームは5位



# 女子体操ロンドン五輪代表の寺本選手入学



寺本選手

## 照準びたりリオめざす

### 2年後へ高い難度に挑戦



レジックスポーツで練習する寺本選手。4月5日のW杯東京大会に大学生として出場、5位となった

体操競技のロンドンオリンピック日本代表、寺本明日香選手(名経大市郎)は、今月から中京大学スポーツ科学部競技スポーツ科学科で学びながら、2016年リオ五輪を目指している。「あと2年。あつという間です。一日一日を大切に練習していきたい」。リオを見据え、決意を新たにしている。

寺本選手は、11年の世界選手権で代表入りし、段違い平行棒、平均台、ゆかの4種目で5位、高校2年で初出場した12年ロンドン五輪は個人総合で日本人最高の11位となった。「オリンピックは、難しい技をどんどんやってみよう」と高難度の技に挑戦している。試合でできるのは世界でもごくわずか、という跳馬の大技「回転前宙一回半ひねり」を、昨年のW杯クラスゴ大会で本番での強さをほめる。

練習場所は、坂本監督が名古屋市内で経営する体操クラブ「レジックスポーツ」。今年6月には、設備の整った新体育館が名古屋市西区に完成し、リオを目指す拠点となる。

寺本選手は当面、「世界選手権で8位以内の入賞」を目標にしている。リオ五輪に向けた今の気持ちを問われると、「自分が求めている演技がしたい。結果はついてくる」とキッパリと語った。

### 11団体に体育会功労賞

中京大学体育会の11団体の天皇杯獲得の水泳部男子、176人が2013年度体育会功労賞に選ばれた。前年度の8団体147人を大幅に上回り、各クラブが競って大きな成果を挙げた。3月4日に豊田キャンパスで表彰式、名鉄トヨタホテルで祝賀会が行われ、功績を称えた。

団体はインカレの活躍が大半年。初優勝のソフトボール部女子、3年ぶり2度目

ノドボール部女子、4位の部、全日本大学王座決定戦で準優勝の男女ソフトテニス部も表彰された。

個人では、世界陸上極高跳び6位の山本聖途選手、ソチ五輪代表の4選手らが栄誉に輝いた。

## 明大と第3回サッカー交流戦 今後も継続 豊田スタジアムと確認



第3回中京大学・明治大学サッカー交流試合が3月15日、豊田スタジアムで行われた。OBや学生、教職員をはじめ、一般市民ら約1000人が観戦した。

試合後のレセプションで、関東、東海の大学サッカーを代表する両チームが果敢な攻防を見せ、写真、動画を撮影し、交流戦の継続を希望する内容となった。

試合に先立つ開会式では、中京大学吹奏楽団が明治大学校歌、中京大学学歌を演奏。ハーフタイムには中京大学附属中京高校のチアリーディング部による演技が行われ、両チームの熱戦を盛り上げた。

試合後のレセプションでは、北川薫・中京大学学長、小幡銀伸・豊田スタジアム社長(豊田市体育協会会長)が、交流戦の継続を確認したうえで、大学選手権(インカレ)などの全国大会の場で両校の活躍を期待した。

## ラクロス 部に昇格



昇格に燃えるラクロス部

### 体育会39団体目

ラクロスサークルが4月から、体育会公認のラクロス部に昇格した。これで体育会クラブは39団体となった。男女のチームともに東海学生リーグの2部だが、今季は1部に勝ち上がるのを目指している。

部員は女子37人、男子33人の計70人(2年生以上)。半数近くが名古屋キャンパスに通う。女子は10年、男子は9年間活動してきた。私生活を含め自分で考え行動する「考動」をチーム訓に掲げている。

ラクロスは網のついたスティックを使ってボールを奪い合い、相手ゴールに投げ入れて得点を競う。谷岡昭歩主将(経営4、高知商業)は「高校での経験者がおらず、全員が同じスタートライン」、副主将の福岡孝太男子主将(経営4、南山)も「リーグは学生が運営している。他大学にも友達ができる」と魅力を話している。

リーグ戦は9月に開幕する予定だが、「1部に勝ち残るチームをつくる」(谷岡主将)、「1部に上がるため2部は1位通過したい」(福岡副主将)と意欲を燃やしている。

## 先輩NOW

### 人付き合い大切に



1990年中京大学体育学部卒。46歳。名古屋学院(現名古屋)高校時代からハンマー投げ選手として活躍。大学時代はインカレで3回優勝。ミスノに入社した1990年にアジア選手権2位、94年の日本陸上競技選手権で優勝した。日本陸上競技連盟の強化委員、投てき部長、副部長を歴任。

### ミスノ陸上競技課長 信弘さん

ミスノへの入社は「ある程度、競技ができて、(引退後も)残れる会社」として選んだ。トップ選手の知名度、大柄な体格、等々力さんを知る競技関係者は多く、「選手時代の人のつながりがそのまま仕事に生かされている」。

ハンマー投げは名古屋学院高校で始め、現在も東海高校記録保持者だ。当時、現役選手でもあった室伏重信教授(現名誉教授)の指導を受けるため中京大に進学した。学生対校選手権(インカレ)は負傷欠場の年を除き3回優勝している。

学生時代、投てきの選手は40人近くいた。男子は大学近くの二

「今思うと、生活規則、目上の人への接し方は寮生活で身に付いた。会社に入ってから苦労しなかった」。大学の体育館にあったサウナで、重信先生と会い、「ターンの入りか……」と話したら、「そこでやってみろ」と、その場で指導を受けたのもいい思い出。

陸上競技課はスポーツプロモーション部にあり、課員11人。販売促進がメイン業務だ。試合会場などの現場で、選手や指導者として、どんな製品が求められているかを聞き、製品開発に役立っている。トップ選手と付き合いを深め、用具に対する微妙な感覚まで教えてもらうため、「人とう向き合うのが大切」な仕事だ。日本陸連投てき部の役員は、選手支援の一環で引き受けている。

新入社員には「とにかく早いうちで失敗しろ」と話している。「失敗して初めて分かることがある。それは経験しかない。失敗を恐れてやらないのはよくない」。競技生活で裏打ちされた考えだ。



# 「あしたの主演」登場

今年のラグビー部の新人は多彩だ。女子の川岸由季奈選手(スポーツ科、時習館)が入部したのをはじめ、ジャマイカ生まれのヤマグチ・ナキーム選手(工、米国フォートリー)、母親がフィリピン人の上戸大輝選手(スポーツ科、大村工業)、イタリヤ、ブラジル、日本の血を引くバルボサ・ギレルミ・谷田選手(スポーツ科、朝明)と、国際色豊かな顔ぶれが集まった。



ラグビー部の新人。左から川岸、谷田、上戸、ヤマグチの各選手

## ラグビー部 国際色豊かな メンバー

川岸選手は父親の影響で幼稚園からラグビーを始めて13年。高校1年から強豪クラブの名古屋レディーズに入り、昨年はU18花園女子セvensに出場した。名古屋レディーズの先輩でもあるラグビー部の本間美月選手(現代社会2、木曾川)にあこがれて入部した。

谷田選手は全国高校大会の「花園」に2年連続出場。上戸選手は昨年の7人制全国高校大会で優勝、主将を務めた。「4年間でチームの柱となる選手に」(谷田選手)、「トップリーグで活躍する選手になりたい」(上戸選手)と抱負を話している。

ヤマグチ選手は100センチ6の俊足。幼少期は名古屋にいたが、米国では中学、高校でアメリカンフットボールをしてきた。「ボールが自分の手に合う」とラグビーを気に入っている。

白馬で行われた全日本スキー選手権大会フリースタイルスキー競技デュアルモーグルで見事に初優勝した。市村美樹選手(スポーツ科3、雄山)が4位、加藤千博選手(スポーツ科4、東海学園)が8位。前日のモーグルでも岩本選手4位、市村選手6位に入賞した。

平昌五輪(韓国)を目指し選手(スポーツ科4、白馬)が3月28日に、長野県白馬で行われた全日本スキー選手権大会フリースタイルスキー競技デュアルモーグルで見事に初優勝した。

また、全日本学生スノーボード大会(3月20日、長野県車山高原)スノーボードクロス女子で、富田マリ選手(スポーツ科2、ア選手)が優勝、同男子で白川裕則選手(スポーツ科4、中京大)が3位に入賞した。富田選手は「ほぼ完璧な滑りができました」と話し、白川選手は「予選は1位通過しましたが、決勝は他の選手と接触したのが響きました」と少し悔しそだった。

## 先生に聞こう



回答者 清水卓也・スポーツ科学部教授(スポーツ整形外科学)

スポーツ傷害はスポーツを行う上での負の側面です。スポーツ傷害にどう対応していけばいいかについて、この10年位で大きな研究の進歩があります。

例えば、診察やMRI検査で半月板損傷と診断されます。膝の痛みの「原因」は半月板損傷なので、半月板の手術をすれば膝の痛みはなくなると考えがちです。しかし、これには大きな誤りがあります。半月板の手術をしても、同じ所に加わるストレスが変わらなければ、症状が改善せず、再発するなどの問題が起りかねません。

半月板が損傷する原因は、遺伝などによる半月板の形態の個人差、練

質問 私のは走り高跳びをしています。故障に悩む選手をよく見ます。スポーツ傷害を予防する研究はかなり進んでいるのですか。(スポーツ科学部1年 宗包麻里菜さん)



## 動作改善で「スポーツ傷害」を予防

習環境などが考えられますが、「動作パターンの乱れ」が重要だとわかってきました。半月板に加わるストレスは、筋肉の使い方や関節の動きなどの「動作パターン」によって異なり、これを正しく修正すればストレスを減らすことができます。「動作パターン」に乱れがあると、筋力を浪費していることになります。

「動作パターンの乱れ」を矯正することにより、筋力をパフォーマンス(運動能力)に使うことができます。以前はスポーツ傷害の予防にはパフォーマンスの質や量を減らすべきだという考え方がありましたが、「動作パターン」に注目するアプローチでは、パフォーマンスの向上が、スポーツ傷害の治療や予防につながるようになります。

「動作パターンの乱れ」を具体的に評価し、これに対する治療方法も明らかにされてきました。こうしたアプローチは全国的にはまだ少ないですが、中京大学ではCISPを中心に行われています。

スポーツ傷害を繰り返し、パフォーマンスを上げられない選手の多くはこの「動作パターンの乱れ」を抱えているはずで、本学には、このように先進的な、スポーツ傷害に対するアプローチが存在することを、知ってほしいと思います。

# 女子バレー 即戦力の藪田、岸村選手



女子バレーの新戦力、岸村(左)と藪田選手(現代社会3 岩月美奈撮影)

女子バレー部の新入部員は、岸村恵実選手(スポーツ科、四天王寺)、藪田美穂選手(スポーツ科、誠徳)、ともにバレーボールの名門校の出身だ。岸村選手は「高1で中京大の合宿に参加し、とてもいいチームだった」と、藪田選手は「高校の2人の先輩と一緒に練習に加わって、高梨康彦部長・総監督は「岸村は予想以上にスピードとキレがある。藪田は長身にプラスして器用さが魅力」と、卒業したエース川島里華選手の後継者と期待している。

藪田選手は高校1年の時、山口国体で優勝、2年時には岐阜国体と春高バレー準優勝の実績を持つ。岸村選手は伝統校の四天王寺出身ながら「私たちの時代は、全国大会に出られなかった」と苦笑した。中京大では力を合わせて頂点を目指す。注目の2人だ。(現代社会2 池尾和哉)

二人がバレーボールを始めたのは小学校低学年の頃。両親や兄弟姉妹の影響で自然と親しんできた。これまでお世話になった人たちが数知れない。「大学では恩師や家族ら多くの人のために感謝の気持ちを込めてプレーしたい」と口をそろえる。

そのために「自分に求められているキレのいいスパイクを磨いていきたい」と岸村選手。「チームが苦しむときにきちっとしたボールを打ちたい」と藪田選手。注目の2人だ。(現代社会2 池尾和哉)



フェンシング部期待の4選手。左から野原、上田、高橋、中臺選手

## フェンシング部に海外経験組めざすは「日本代表」

フェンシングの国内外の大会で実績のある男女4人の新入生が、フェンシング部に入学した。

野原(岩田工業)、上田(埼玉栄)の男子選手2人と、中臺志穂(愛知商業)、高橋伊吹(高崎商業)の女子選手2人(いずれもスポーツ科学部)。

4人も高校からフェンシングを始めた。

男子2人は、2012年のジュニアW杯ドイツ大会に出場し、「外国人と試合をしていい経験になった」という。中臺

選手も、昨年11月のジュニアW杯ウクライナ大会に派遣された。高橋選手は昨年のインターハイ団体8位、国体に出場している。4人も3月から練習に合流し、「先輩が熱心だし、練習の雰囲気がいい」(中臺選手)と感じている。

上田選手の目標は「世界一になりたい」と大きい。野原選手は「大学ナンバーワンを目指す。高橋選手は「ジャパンを付けること」と、中臺選手は「ナショナルチーム入り」と日本代表を目指す。

## ファイギュア国際大会2位 大庭選手デビュー

ファイギュアスケートのガルーダスプリングトロフィー国際大会(3月29、30日、イタリヤ)で、大庭選手(スポーツ科1、中京大)が2位となった。シリースへの参戦を目指す。

大庭選手はショートプログラム2位、フリーは自己ベストを出して1位だった。4月に中京大学に進学したが、理由は「スケートの環境が整っていること。将来スケートのインストラクターになる勉強をするためです」。当面は授業と練習を両立させて世界ランキング上位に入り、グランプリシリーズへの参戦を目指す。

表を狙う。中京大フェンシング部女子は昨年11月の全日本選手権で優勝して、4人の飛躍が期待されている。

権エベ団で優勝して、4人の飛躍が期待されている。

中京大学のスポーツ情報 大学HPの「スポーツ」(<http://sports.chukyo-u.ac.jp/>)、facebook「スポーツ振興室」(左下QRコード)で紹介しています。

「中京大学スポーツ」に関するご意見は、スポーツ振興室(sports@mng.chukyo-u.ac.jp)へお寄せください。



# 連覇をめざす男女ハンドボール 大勝の好発進

ハンドボールの東海学生春季リーグは4月5日に開幕した。男子は開幕戦で名大と対戦し、30-18で快勝。13日の第2戦も愛知学院大を38-17で倒し、5季連続優勝、さらに目標のインカレ制覇に向けて好スタートを切った。一方、女子は13日に愛知淑徳大と初戦を戦い、36-10と大勝した。まずは2011年春季から続くリーグ連覇を「7」に伸ばすのが目標だ。



男子ハンドは開幕好発進。名大戦でシュートする山田陽平選手

男子ハンドは開幕好発進。名大戦でシュートする山田陽平選手。目標のレベルが高いだけに船木浩斗監督は「新チームはまだまだこれから」とムはまだまだこれから」と戦いぶりに満足していない。宮元辰朗主将も「初戦というところで緊張もあったが、シュートにいくまでのミスが多かった。課題も見えた」と話す。

「初戦は相手の主戦を抑えてからは守りが安定した。1試合1試合相手の出方を見てきちんと対応していきたい。一人で局面を開ける選手がおらず、リーグ戦で臨機応変の対応力をつけて、全員で進んでいく」。船木監督はそんな青写真を描いている。

5月11日(日)と17日(土)には、中京大学豊田キャンパスの大体育館でリーグ戦が予定されている。(現代社会3 吉田梨花子、写真も)

## サッカー 目標は学生日本一

サッカーの東海学生リーグは4月5日に開幕した。名商大と対戦、前後半に1点ずつをあげ、2対0で快勝。目標の学生日本一に向けてまずまずのスタートを切った。

勝。目標の学生日本一に向けてまずまずのスタートを切った。昨年の東海学生リーグでは、第17節まで首位を走りながら、最終節に東海学園学生リーグは3月31日に始と燃えている。

また、準硬式野球の東海学生リーグは3月31日に始と燃えている。

## Chukyo's COACH

ソフトボール部 二瓶雄樹部長兼監督

ミーティングを重視し、選手全員が同じ目標に向かって努力することを説いている。愛し、愛され、勝負にこだわるのがチームの理念。「言葉に對する思想や思いを伝えることは、指導の上で一番大事にしています」と二瓶監督。パワーポイントやビデオ、写真を使い、視覚的にも工夫する。女子チームの昨年のインカレ初優勝は、こうしたメンタルマネジメントの成果でもある。

監督に就任した当初は、小学時代のソフトボール経験は薄れており、手探りの指導だった。「試合の度に学ぶ」ことが大切だ。監督は、選手全員が同じ目標に向かって努力することを説いている。愛し、愛され、勝負にこだわるのがチームの理念。「言葉に對する思想や思いを伝えることは、指導の上で一番大事にしています」と二瓶監督。パワーポイントやビデオ、写真を使い、視覚的にも工夫する。女子チームの昨年のインカレ初優勝は、こうしたメンタルマネジメントの成果でもある。

## 指導者の能力も養う

二瓶監督は選手が自ら主体的にかかわるよう促すのを基本にしている。選手の技術的、精神的、社会的な成長がやがていくなっている。選手は、教員や指導者を指す学生が多い。そうした立場になった時に、自信を持って指導できるように、ゲーム特性や戦略戦術なども教え、ソフトボール指導者としての能力も養っている。

# 春季リーグ開幕「応援に行こう」

## 硬式野球 1、2年気を吐く



開幕初戦で完投勝利を挙げた山下大介投手

昨年の秋季に9季ぶりの優勝を挙げた硬式野球部は、連覇を目指して4月5日開幕の春季リーグを戦っている。優勝すればそのまま6月の全日本大学選手権出場が決まるため、各チームが総力を挙げて攻防を繰り広げている。

中京大は開会式直後の開幕戦(名古屋・瑞穂球場)で、2部から昇格した日本福祉大と対戦した。昨季までの大黒柱、清水翔太投手(日本生命)をはじめ、卒業生が抜けた後の戦力を占める一戦でもあった。

半田卓也監督が先発に起用したのは、初先発の山下大介投手(現代社会2、帝王大)。立ち上がりからテンポ良く、切れの良いストレートを投げ込んだ。三回に二塁打と送りバント、スクイズで先取点を許したが唯一の失点。味方がその裏に逆転した1点差を守りきった。被安打3、内野ゴロで18アウトを取り、三振こそ最終打者から奪ったわずか1だったのが、投球数約100球の見事な完投勝利だった。

一方、打線は好機に一打が出ず、決め手不足が気になり。日福大との第2、3戦とも延長11回で屈し、勝ち点を逃した。ただ、5番に抜擢された新人の北村渉三塁手(スポーツ科1、久居)が初戦に決勝の犠飛、第2戦ではいったん試合を同点とする右前打を放つなど気を吐いた。

半田監督は「山下、北村だけでなく、若い選手が期待以上の力を発揮している。上級生が昨年までの力を出してくれば」とリーグ連覇をにらんでいる。

## 50自由形伊藤選手2位

水泳の第90回日本選手権が4月10-13日の4日間、東京辰巳国際水泳場で開かれた。アジア大会(9月19日-10月4日、韓国・仁川)、パンパシフィック大会(8月21-25日、豪州・ゴールドコースト)への派遣選考会を兼ねており、選手たちは派遣標準記録と上位入賞に挑んだ。



最高成績は50自由形2位の伊藤選手で、延べ14選手が入賞。表彰台に上ったのは、伊藤選手のほか、男子50背泳ぎ3位の川本武史選手(スポーツ科2、豊川)、男子100背泳ぎ2位の白井選手、男子背泳ぎ陣の活躍が目立った。

川本選手のほか、50自由形で6位、川本選手は50バタフライで5位に入賞、女子では唯一、清野尚哉選手(スポーツ科4、東北)が、100背泳ぎで森万柚子選手(スポーツ科2、大垣商業)が8位に入った。

また、準硬式野球の東海学生リーグは3月31日に始と燃えている。